

## 各水試発トピックス

# 北海道で初！ 海洋深層水利用学会全国大会が羅臼町で開催されました

2007年10月4、5の両日、北海道では初めてとなる海洋深層水利用学会全国大会が羅臼町で開催されました。現在、道内にある海洋深層水の取水施設は、羅臼町の他に岩内町および八雲町の3カ所に設置されています。海洋深層水は、①太陽光の届かない水深から取水しているため、一年を通じて水温がほぼ一定で低い（羅臼町では3℃前後）こと（低温安定性）、②細菌を含めた微生物数が表層水の1～10%程度で少ないこと（清浄性）、③表層水に比べ無機栄養塩が多いこと（富栄養性）などの特長を持っており、これらの特長を生かして、全国的にいろいろな分野で利用されています。例えば有用な海藻などの培養、冷房などの冷媒、最近ではタラソテラピーとして深層水浴へも利用されています。海洋深層水を利用した工業製品としては、一般的にはミネラルウォーターや塩などがあるのですが、最近ではビールなどの酒類や化粧品なども販売されています。

ところで、海洋深層水利用学会全国大会は、今年度で11回目を迎え、毎年、全国で海洋深層水を取水している市町村で開催されています。また、この学会では海洋・水産分野に限らず、海洋深層水をキーワードとして農畜産業、医療、工学関連分野に至るまで幅広い研究分野からも発表がありました。今回、筆者は今年度から羅臼町と羅臼漁協の協力の下で開始した「海洋深層水を活用した生鮮貝類の高品質化に関する研究」で得られた知見を「海洋深層水を用いた貝類等の短期蓄養技術

の開発に関する基礎試験」として発表しました。同じ水産分野では他にも羅臼町が行った「海洋深層水を用いた陸上蓄養によるエゾバフンウニ成熟抑制の試み」、海洋深層水の先進地である富山県の水試等が行った「海洋深層水を活用したウニの自給型養殖技術に関する研究」など興味深い報告がありました。水産分野以外でも、発酵乳製品への海洋深層水の添加効果、動物への深層水浴の効果などの報告がありました。さらに、国際的にも韓国、台湾およびインドそれぞれにおける深層水の利用状況についても報告がありました。

今後の北海道における海洋深層水の利活用については、先進地の高知県や富山県などで行ってきた研究成果を基に、今以上に進むことを期待します。



(菅原 玲 釧路水試利用部)